

複合災害下での 原子力防災における避難の課題と対応 に関する研究小委員会

活動報告

令和6年12月20日

設立趣旨と活動スケジュール

- **目的**：「原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析」WGが示した論点・課題の分析を進め、現行の複合災害時における原子力防災対策として、立地自治体の住民避難をより実効性のあるものとする。
 - 抽出された課題に関する対応の考え方と解説の作成し、関係機関に提言する。
 - 作成する技術文書は、従来の防災計画の形式である手順書ではなく、実施すべき事項の背景、目的とその根拠などを基本的な対応の考え方と解説として示し、手順書に基づく対応の組織、および組織間の運用を合理的かつ柔軟に実施するためのものとする。
- **活動期間とスケジュール**：令和6年7月～令和8年6月の2年間。
 - 令和6年度から令和7年度の前半：WGで抽出された原子力防災における避難に関する課題の分析、抽出された課題に関する対応の考え方と解説の作成を年3回程度で小委員会を開催。
 - 令和7年度の後半：活動の取り纏めを実施し、新潟などの立地自治体を対象としたworkshopを開催。
 - 活動期間中に研究討論会も実施予定。

成果物と技術文書審議タスク

- 成果物(技術文書)**：複合災害下での原子力防災における避難の目的と実施時における基本的な対応の考え方と解説
- 技術文書の種類**：技術資料
- 技術文書審議タスクメンバー**
 - 今村文彦：東北大学災害科学国際研究所 教授
 - 畑山満則：京都大学防災研究所巨大災害研究センター長 教授
 - 成宮祥介：一般社団法人 原子力安全推進協会

複合災害下での原子力防災における避難の課題と対応に関する研究小委員会 メンバー(委員12名,オブザーバー1名)

委員長： 蛭澤勝三 元東京都市大学・客員教授

幹事長： 佐藤栄一 新潟工科大学工学部・教授

幹事： 中村晋 日本大学工学部・上席研究員

委員：

- 高田毅士 日本原子力研究開発機構 安全研究・防災支援部門 リスク情報活用推進室・室長(東京大学 名誉教授)
- 関谷直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター・教授
- 宗像雅広 日本原子力研究開発機構 原子力緊急時支援・研修センター・センター長
- 臼田裕一郎 国立研究開発法人 防災科学技術研究所総合防災情報センター・センター長
- 山本晃弘 福井県庁 原子力安全対策課・参事
- 香月 智 一般財団法人 砂防・地すべり技術センター・研究顧問(防衛大学校・名誉教授)
- 山田博幸 (一財) 電力中央研究所 原子力リスク研究センター リスク評価研究チーム 副チームリーダー
- 川崎洋輔 日本大学工学部土木工学科・准教授
- 武田智吉 前田建設工業(株)土木事業本部

オブザーバー： 田邊揮司良 (株) ジョイント・システム・サービス・顧問

活動状況

■令和6年8月 8日 : 第1回 幹事会

- **参加者** : 蛭沢勝三, 中村晋, 高田毅士, 山田博幸, 佐藤栄一
- **検討事項** : 原子力土木委員会複合防災小委員会における活動の基本方針, 能登半島地震で顕在化した原子力複合防災の課題

■令和6年8月22日 : 第1回 小委員会

- **参加者** : 蛭沢勝三, 佐藤栄一, 高田毅士, 宗像雅広, 臼田裕一郎, 山本晃弘, 香月 智, 川崎洋輔, 武田智吉
- **検討事項** : 委員紹介, 小委員会の趣旨説明とこれまでの活動の経緯(規格情報小委員会/原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析」WG 報告書の説明と報告書), 小委員会の活動方針, 論点・課題に関する対応の考え方と解説の作成の基本方針, 今後のスケジュール
- **小委員会の活動方針と実施事項** :
 - 小委員会の進め方を整理・準備するため幹事会の設置(蛭沢勝三小委員長、佐藤栄一幹事長、中村晋幹事、高田毅士委員、山田博幸委員等)
 - 開催頻度等 : 3~4回/年、3~4時間/回, オンラインと対面(1回程度/年)
 - 実施項目 : WG報告書の4論点・11課題に関連する話題提供と議論(必要に応じて課題等を追加), 小委員会報告案の検討、委員による話題提供(案 : 原子力防災と課題 関谷委員, 防災/避難へ自衛隊の果たす役割(仮称) 香月委員・田邊オブザーバー), 委員以外の専門家の話題提供, Workshop, 研究討論会

WGで抽出した4項目, 11課題 -原子力土木委員会として取り上げるべき課題-

■今後の方策を纏める上での前提となる考え方

- 複合防災関連の基規準類の「手続き」から「解説」への転換
- ALARAの適用の考え方

■防災/避難計画の策定における基本方針

- 複合防災における一般防災との連携
- 深層防護における4層と5層の一元化(住民との対話も含む)

■避難に関する見直し事項

- 複合防災における緊急事態区分と防護措置・判断基準間の連関の検討
- 地震・津波下での2段階避難(PAZ,UPZ)の検討
- 屋内退避の確保
- 遠方避難の適正な距離の基準設定
- 避難経路の確保(陸路・海路・空路関連のインフラの整備等)

■複合災害時の原子力防災対策に関する情報共有と対話の有り方

- 平時のリスクコミュニケーション
- 避難に対する住民との双方向対話

今後の活動予定

- 令和6年12月 *日 : 第2回 幹事会
- 令和6年12月16日 : 第2回 小委員会
- 議事 : 前回議事録の確認, 話題提供および質疑 : 原子力防災の課題(関谷委員), 話題提供を踏まえた避難課題に関する議論, 今後のスケジュール, その他